

(1)

北陸学院同窓会々報

発行責任者
小崎 淳子

第 62 号
2023年 7月

「心の天気は晴れ」



会長 小崎 淳子
(小崎)
(昭和39年度卒)

桜前線が日本全国に明るい日差しを振りまいていきました。穏やかな四月だったのですが、五月五日のごどもの日に起こった能登半島を揺るがした地震、特に珠洲市方面の被害は想像に難しくありません。あの日から何度も体に感じられる地震で家の中はまだまだ荒れていると聞き及んでいます。被害に遭われた地域の方が少しでも早く日常を取り戻すことが出来ますように心よりお祈りしております。

マスク着用も個人の判断に委ねることになった今年、ようやく町中に賑わいが戻ってまいりましたね。平常通りゴールデンウィークには大勢の人の移動があり、六月には百万石祭りも開催されました。

七月の青空が光って見えます。蝉も沸き立つように元気な声で鳴いております。
明るい日差しの中なのですが、この四年間の閉じこもり生活に少しずつ何かが変わってきたように思っています。

今まで、欠かさずにバイブルクラスに参加されてこられた方の姿も見えなくなりました。マスク着用の生活で笑顔も隠れたように感じられます。

皆さまと一緒に食事をするのもまだ思案の中にあります。

当たり前にやってきたことが当たり前でなくなってきたこと。そう感じた時、一期一会のご縁の深さ、そしてそこで出会う人との繋がりの大切さを深く思いました。

出不精になった体を動かすにはとても大きな力が必要になります。自分に喝を入れたいのに中々入りませんね。私はそんな時、「よし、やろう」と自分の心に喝を入れていきます。それによって心を青空になるようにしています。青空はとても気持ちがいいものです。どこかへ行きたくありません。

何年か前に友達が私の顔を見て「何暗い顔してるの、そんな顔してたら回りも暗くなるよ、青空を思ったら、とっても気持ちいいよ」その言葉が私の心の琴線に触れたのでしょうか。それからはなるべく晴れを意識するようにしました。不思議なことにそれからは余り思い悩むことが少なくなりました。

同じ考えるのなら良い方に考えたほうが気持ち良いですね。

今年四年ぶりに総会を開催したいと思っております。なるべく多くの方に来ていただき、懐かしく歓談したいと思っております。しかしながら状況がまだ落ち着いておりませんので、今回は礼拝と総会のみらせて頂きます。初めての方もいらっしゃるかもしれませんが、同窓会館、ウィン館の雰囲気を感じ取っていただければ幸いです。

北陸学院同窓会 第128回総会開催のお知らせ

【日時】 2023 (令和5) 年9月18日 (月・祝)
午前10時30分～ (受付10:00)

【場所】 北陸学院同窓会館 金沢市飛梅町1-10
《礼拝》午前10:30
《総会》午前11:00
(懇親会はありません)

【会費】 無料

【締切】 9月2日 (土) 同封のはがきにて出欠をお知らせ下さい。

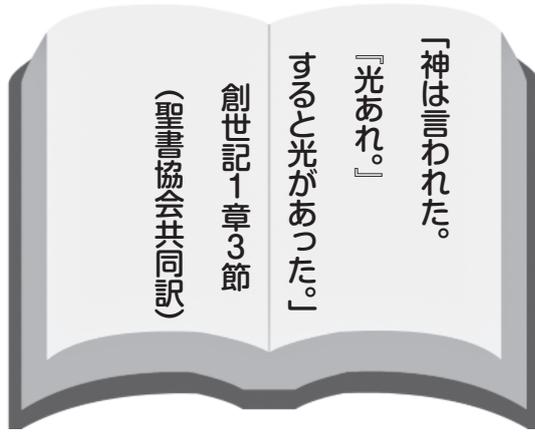
※当日は北陸学院ウィン館「北陸学院10人展」がご覧いただけます。



「光あれ」



学院長 楠本 史郎



「神は言われた。

『光あれ。』

すると光があった。」

創世記1章3節

(聖書協会共同訳)

「おはようございます」と挨拶を交わしました。見覚えのある顔です。けれども誰なのか分かりません。マスクをした顔ばかり見ていました。初めて全体を見ました。それで、誰なのか分かりませんでした。ここ数年で世の中がずいぶん変わってしまっただと感じました。

ウィルスがやはり、時代は大きく変わりました。人のお付き合いも、前のようにではなくなりました。学校も、元の生活に戻ったというよりも、別の世界

が始まったように感じます。変化につまづいていきません。違和感を覚えます。不安さえ感じています。

創世記第一章は、神が一週間で世界をお造りになったと語ります。その後には、厳しい歴史がありました。国が敵に攻められ、滅びました。エルサレムの都は荒廃し、神殿も崩れ落ちました。大勢の人々が、遠い敵の国に連れ去られていきます。「神はわたしたちをお見捨てになった」と嘆きます。絶望の暗闇に突き落とされました。

その人たちに聖書は語りかけます。「神は言われた。『光あれ。』すると光があった。」神が新しい世界を創造されます。光を造り、絶望の暗闇を照らします。闇のなかに希望の光が輝き、新しい世界が生まれます。それは神の御心になう良い世界です。

わたしたちは光から闇へという順序で考えがちです。光が朝、輝き、午後には次第に沈み、夕闇へと消えていきます。若く元気だった人が、老いて弱っていきます。光が闇へ、命が死へと移行行くと思えます。けれども聖書は逆です。闇から光へと向かいます。一日は夕方から始まり、夜の闇を迎え、そして光の朝へと向かいます。死を迎える命もまた、神は甦らせ、新しい命に生かしてください。

時代は変わります。その変化に私たちは不安を覚えます。しかし神は闇の中から光を造り、死から命を生み出してください。この希望の光があります。だからまた新しく立ち上がることができます。

(五月のバイブルクラスより)

「虹の架かる空を夢見て」



中学校・高等学校校長 堀岡 満喜子

ハワイのことわざらしいのですが「No Rain, No Rainbow」という歌があります。元大相撲力士であった「ニシキ」さんがウクレレで歌っておられました。この歌を作詞・作曲した原田博行さんは、私の幼馴染のようなクリスチャンの友人です。



♪ No Rain, No Rainbow

雨の降らない虹はない

No Rain, No Rainbow

朝日の出ない夜はない

明るい調子ですが、「雨」や「夜」を知らない人の歌ではないのでしょうか。「虹」を求める「雨」の日々を、「朝日」を願う「夜」の時を潜った人こそが、この歌をつたうのでしょから。

「雨の後には虹が架かる」

創世記に、ノアの箱舟の物語があります。神に命じられ世界を飲み込む大嵐の中を潜り抜けたノア。雨が上がり、あの日、神が祝福の約束として空に架



クリスマス礼拝

けられたのも虹でした。
 学校に三カ月にも及ぶ休校要請が出て以来、新型コロナウイルスを意識しての三年が過ぎました。本校にも、雨上がりの空に虹が架かるだろうかかと天を仰ぐ思いです。
 今年も中学校三二名、高校三四九名の新入生を迎えました。五月に入ったら、マスクを外す生徒が増えるでしょうか。感受性の強い時期に、目に見えないウイルスに怯え、顔を隠して過ごした若い人たちの心に、時代の影がどのように落ちているのかを案じています。雨がやみ夜が明けた時に、晴れやかに天を仰ぎ昇る朝日の輝きを、架かる虹の麗しさを、心ふさいできたものを脱ぎ捨てて見つめることができるかどうか。新しい挑戦が教育の場所に求められてくるようにも感じています。
 同窓生の皆様は昨年、飛梅の同窓会館でクリスマスの礼拝を守られました。お会いできなくてもお互いを覚えて祈り合っただけでも、今年も、クリスマスのお喜びをお与えくださった神様の豊かな祝福が、卒業生の皆様にありますように切に祈ります。

《2023年度 バイブルクラス予定》

場所：同窓会館（13：30～）
 (お話) 学院長 楠本史郎先生

	月日	備考
2023年	10月16日(月)	
	11月13日(月)	
	12月11日(月)	クリスマス礼拝
2024年	1月	お休み
	2月6日(火)	
	3月11日(月)	
	4月15日(月)	
	5月20日(月)	
	6月17日(月)	
	7月8日(月)	
	8月	お休み

クリスマス礼拝は準備の都合上事前に参加をお知らせ下さい



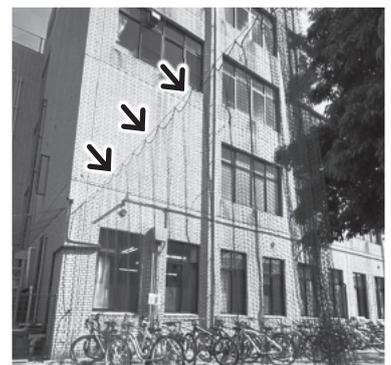
4月バイブルクラス 久しぶりの茶話会にて

2022年度 部・同好会活動支援金の使途

- 2017年度 クッキングクラブ 最新冷蔵庫
- 2018年度 吹奏楽部の楽器 ホルン
- 2019年度 " 一部負担
- 2020年度 合唱部の楽器
- ハーモニーディレクター
- 2021年度 テニス部の夜間照明
- 一部負担



防球フェンス



防球ネット

2022年度 飛梅テニスコートの防球ネットと 防球フェンス購入

特集

「飛梅町(石引町から旧町名復活)」周辺環境も静かに変化してきました。飛梅キャンパスにも新しい学生たちの登下校の流れがやっ

と戻ってきました。振り返って、毎日の朝夕に友人と通り抜けた歩道や交差点の信号、出羽町バス停、北陸学院での学校生活が詰まった「今昔(いまおかし)」を、元中高校長・山内ミハル先生と北陸学院ウィン館・山本悦子館長に語っていただきました。同窓生の皆様、懐かしい景色を思い出して下さい。



元中学校・高等学校校長 山内 ミハル

六二年前の四月五日、私は初めてJR(当時国鉄)と言っていました。金沢駅に降り立ち、右も左もわからないので、タクシードライバーの北陸学院職員寮に向かいました。途中、公園下から小立野台に上がる坂道は、中央に金沢駅から小立野・大病院まで伸びる市電が走る線路があり、右手後ろに金沢城に入る橋を見ながら、満開の桜の下を通った感動は今も忘れられない思い出です。宣教師が住んでおられたという寮には、一階に小林道子先生一家と小池久子先生、二階に広出房枝先生と上野武先生一家があら

は野球場でした。後に野球場が移転し、敷地が売りに出されたとき、当時の小田一郎校長が「北陸学院が買えたらなあ」と残念がっておられたのを覚えています。坪三万円とか六万円とか...だったと記憶していますが、当時の学院の教員の初任給が九、八〇〇円位でしたから、やはり高値の花だったのでしょう。四月八日入学式が栄光館で行われ、私その他二名の新任教諭の紹介がありました。この栄光館は一九五二年(昭和二十七年)に建てられたもので、校歌にある柳と桜が両脇に植えられている高等学校正門を入ったすぐの右手にあり、数段の石段を上って、ドアを開くと一〇〇脚ほどの大変重い長椅子の向こうに重厚な緞帳のかかっ



たステージを持つ、趣のある礼拝堂兼講堂でした。この栄光館前の階段は、毎年新年度のクラス写真を撮る場所でもありました。生徒たちは、当時入場無料であった兼六園(一九七六年に有料化)の中を歩いて徒歩で通学する生徒と、市電(一九六七年廃止)を利用して国立病院(現在の医療センター)前で下車し、当時番匠鐵雄院長が住んでおられた会館(元横山男爵の屋敷)の前を左折して登校する生徒が大勢でした。北陸学院中学・高校の筋向いには聖ヨハネ教会があり、毎年春には紫色の花をたくさんつける木蓮の大樹が見事です。紫錦台中学校の前を金沢大病院の方へ数メートル行ったあたりに銭湯と映画館がありました。映画館は後年成人映画を上映するようになり、間もなく廃業してしまい、銭湯も今では商店に変わっています。



梅町(石引町) かいわい

むかし昔

飛梅町(旧石引町)
由来：前田藩の重臣だった前田美作守家中の家紋「角の内梅輪」がとびうめだった。明治2年この名がつけられた。昭和39年このあたりの住居表示は石引町、平成12年4月1日、旧町名が復活した。

半世紀余りの間に、飛梅界隈は新旧取り混ぜ、今なお古都の雰囲気漂わせています。



北陸学院ウイン館

飛梅キャンパスには、創立当初のころの佇まいのまま残っている唯一の洋館、北陸学院ウイン館があります。2011年度からは一般公開され、北陸学院の歴史に関する展示が毎年されています。学院報でご紹介していますが、今年は「北陸学院10人展」を開催中です。みなさまには久しぶりに懐かしい飛梅キャンパスに足を運んでいただき、当時の思い出を振り返っていただきたいと思います。

展示期間：2023年4月17日(月)
～12月15日(金)
開館時間：午前9時～12時 入場無料
(土・日・祝日・学院の休業日は休館)

現在の飛梅界隈の風景。一〇年ほど前に学校のかどにあった同窓会館の建物はなくなり、二〇一七年に竣工した、吹き抜けのガラス窓が光る中高新校舎が広々としたエントランスに面して建っています。同窓会館は、旧ウイン幼稚園だった園舎に移りました。新校舎の玄関口には、校歌にあるように、柳と桜が植えられ、中央には建学の精神を刻んだ石碑が据えられ、卒業式、入学式の記念撮影の大切な場所になっています。

私達にとって、学校のシンボルだった栄光館は取り壊され、グロリアチャペルと名称を変えて新校舎に入りました。飛梅交差点を挟んで斜め左側に立つ「聖ヨハネ教会」も、ノアの箱舟を想い起こさせる建物に生まれ変わっています。現在の中高生の数は約一〇〇人で、三割程度の男子を含めた多くの生徒が新校舎の玄関に吸い込まれるように集まっています。自転車通学の生徒も多く、街中の校舎の混雑は今も昔も少々危なっかしいところがあります。

本多の森公園界隈に目を向けると、野球場だった場所に、厚生年金会館が建ち、その後本多の森ホールへと名称が変わっています。また、レンガ造りの旧金沢美術工芸大学校舎は、石川県立歴史博物館となり、国立工芸館が石川県立美術館の横に東京から移転し、向かい側の能楽堂も整備され、二一世紀美術館から続く文化の香り高い一角となり、生徒たちの登下校には最高の環境となっています。

北陸学院ウイン館館長
山本 悦子 (高桑)
(S 48年度卒)

恩師・

卒業生はいま…



松田 三千代
(本東)
(S 32年度卒)

私は今八二歳、たまに脚や肩の手術で整形外科に入院したりしていますが、退院すれば、年齢相応ではあります、元気に一人暮らしを楽しんでいます。

私は北陸学院中学校・高校の卒業生でもあり、あの頃の先生方の熱心な信仰生活の影響を受け、現在も教会（白銀教会）に毎週日曜日の礼拝、毎水曜日の聖書研究祈禱会に出席、そして毎朝六時からの早天礼拝にもスマホによって参加しています。また、教会の奉仕：週報やカレンダー、聖書日課等のパソコンでの作成と印刷、受付、礼拝委員、墓所委員、伝道委員、問案係などを担っています。モーセのように一二〇歳まではとても生きられませんが、神様の御用のために自分の出来ることはやっていけたらと思っています。

教会の帰り、名鉄のデパートを通ると、かつての教え子が何人か働いていて、声を掛けられたりするのは嬉しいことです。年賀状等で元気な教え子の様子を知ることが嬉しです。また、日本の大学（青山学院、東京大学）の大学院を出て、アメリカに学び、そこでアメリカの方と結婚した教え子が日本に帰国した際、我が家にご家族と一緒に訪れてくださった事があり、嬉しいことでした。

教会には現在も北陸学院の中高生が来てくださると、とても懐かしくまた嬉しいです。

熊谷 あゆみ
(高田)
(H12年度卒)

北陸学院高校を卒業後は京都の同志社大学に進学し、現在は大学で職員として働いています。これまでに複数の部署を経験しましたが、入社当時に携わっていた国際教育に関する部署で二〇二〇年から再び勤務するようになりました。コロナ禍では留学生が日本へ入国できない状況が続いていましたが、昨年の秋からようやく再び留学生を迎えられるようになり、キャンパスにも新たな活気が戻ってきたところです。

一昨年出張で金沢へ訪れる機会があり、その際にお会いした同窓生の方から児玉先生の近況を知ることができました。北陸学院を退職後、寺子屋を開いてごどもたちへの教育支援活動をされていると聞き、児玉先生らしい取り組みをされているのだなと懐かしく感じると同時に、自分の「ミッション」は何だろうと我が身を振り返る良い機会にもなりました。

仕事や子育てなど目の前のことに追われがちな日々ですが、迷った時は「自分にできることは何か」「自分は気づけるのか」を自問しながら行動するよう心がけています。この習慣は、振り返ってみると北陸学院での学校生活を通じて身に付いたもののように思います。先生方に見守られながら自由のびのびと過ごさせていただいたことに、あらためて感謝の気持ちでいっぱいです。

支部だより

関東支部



倉島 尚美
(朝倉)
(S 38年度卒)

主の御名を賛美いたします。
同窓会の皆様お元気でしょうか。
関東支部会も、今年こそは、今年こそはと準備をしていますが、コロナ禍で三年間開催することができませんでしたが、今年に入り、完全終息ではありませんが何か光が見えてきたように思い、準備を始めました。

今までのような飲食を伴うことにはまだ不安がありました。今回は出欠をとらず、当日判断して参加していただくことにしました。会のことを忘れず、顔を合わせて話し合う場であればいいと思います。



とに感謝します。

これからも皆様とともに会を重ね、続けられますようにとお祈りいたします。

六月三日(土)、九段教会をお借りし、午後二〜四時の短い時間でしたが、先生を含め十名が集まりました。今の状況や学生時代の思い出話など会話は尽きることなく、とても楽しいひとときを分かち合いました。

新たな思いで会の一步を進められたこ



関西支部

中村 彩子
(S 55年度卒)

令和元年一〇月、「来年からはお願いね」と前役員の方から関西支部役員のパトンを渡され、一年に一度の楽しい時間を準備するわくわく感と、同窓会の火を絶やしてはいけないという責任感を背負った瞬間でした。しかし……

翌年一月には日本でも新型コロナウイルスの感染者が確認され、あつという間にマスク生活と外出禁

止生活が始まり、それから三年間は同窓会は見送つてまいりました。

みんなが気持ちの沈んだ三年の間には同窓会本部の皆様には温かく見守っていただき、会員の方からの「必ずまた皆さんとお目にかかりたいです」「早くお会いしたいですね」等々のご連絡は、私たち三名の役員に大変励みとなりました。

そしてこの度、五月からの行動制限緩和を機に、参加者の安全を最優先に考ながら関西支部では一〇月に同窓会を開催することいたしました。

生徒時代を昨日のことのように笑顔で話せる時間を共有できるよう、先ず第一歩進みたく思います。

東海支部



八木 寿満子
(西村)
(S 37年度卒)

東海支部を担っていることは私の誇りだったので、横の連絡が思うように取ることができませんでした。

このような状態では情報もなかなか得ることが出来ず、支部が有って無い状態でした。そろそろ次世代へパトントンタッチして活性化して頂くとは思っています。そろそろ男性の方にも役員として入っていただきたいと思えます。どなたか東海方面にお住みの方をご存知であれば教えて頂きたいと思えます。

同窓会バザー

今回のバザーの売り上げは、2023年5月5日の奥能登地震の復興支援金に充てたいと思います。

2023年9月2日(土)

午前11時～14時

ご家庭で眠っている品物がございましたら、ご提供ください。
ご来場を心よりお待ちしております。

物品販売
のみ

△二〇二二年度 活動報告△

【期間】

二〇二二年九月一日～二〇二三年八月三十一日

第二二七回総会中止により行事計画につきましても、その折々の状況をみて行いました。

二〇二二年

9月 第一二七回総会（中止）

9月5日 バイブルクラス（中止）

10月17日 バイブルクラス

11月14日 バイブルクラス

12月12日 バイブルクラス（クリスマス礼拝）

二〇二三年

2月 同窓会費、部・同好会活動支援金納付

案内発送

2月13日 バイブルクラス

2月28日 新会員入会式（学校に二任）

常任幹事会（中止）

3月7日 バイブルクラス

3月17日 中学校卒業式（記念品贈呈）

4月17日 バイブルクラス

5月15日 バイブルクラス

6月12日 バイブルクラス

6月17日 常任幹事

クラス幹事会

7月10日 バイブルクラス

7月中旬 会報「62号」発行

二〇二二年度 役員及び支部役員

名誉会長 北陸学院学院長

顧問 楠本 史郎先生

北陸学院中学校、高等学校校長

堀岡 満喜子先生

同 堀岡 満喜子先生

事務局便り

【北陸学院同窓会館】

〒920-8563
金沢市飛梅町1-10
TEL 076-261-1868
FAX 076-261-2268
《Eメールアドレス》
hsdoso@hokurikugakuin.ac.jp

- 住所変更・改姓などの連絡事項がありましたらお知らせ下さい。
- 同窓会館は毎週 月・水・金曜日の午後1時から4時まで開いています。お近くにいらした際はぜひお立ち寄りください。

同窓会費

一年分 一、〇〇〇円（何口でも可）

部・同好会活動支援金

一〇、一、〇〇〇円（何口でも可）

《ゆうちょ銀行》

〇〇七〇〇〇一六八五五

北陸学院同窓会

（随時受け付けております。）

編集後記

「なつかしい」は人や時代によって変わります。人と交わり、時間を共有することで、体験しなかった時代の記憶をたどることも楽しいですね。お話を同窓会館でお待ちしております。